いわきに「天文台」

首都圏のアマ天文家ら20人

あす開所式 地元ファンと交流へ

東京や埼玉など首都圏のアマチュア天文家たちが、五年がかりでいわき市田人町荷路夫の山中に手づくりの「いわき天体観測所」を建設、六日、仲間が集まって開所式をする。メンバーの一人で、世話人の東京都世田谷区北島山、設計事務所経営田中政明さん(三六)は「常磐道を利用すれば都内から三時間。まだ自然が豊富で、光害も少ない。星を見るのには絶好の場所です。観測所を開放して地元の天文ファンとも交流を深めていきたい」といっている。

いわき天体観測所は、JR勿来駅から北西へ約二十キロ、標高約七百メートルの高台に造られた。四月に開通した常磐自動車道の勿来インタから三十分ほどで着く。外見は白い一般住宅のようだが、屋根がスライドし、二階から、十四等星まで見える三十センチニュートン式反射望遠鏡が顔を出す。

同時に大勢の人が観測できるようにと、スライディング・ルーフにした。木造二階建て、八十平方メートル。設計は田中さんの事務所が手がけた。

自分たちの天体観測所を造ろうと同好の仲間二十人が集まったのは六年前。二十歳から五十一歳まで会社員、教員、主婦らと、仕事も様々だ。資金に、それぞれ　　を出し合い、すぐに土地探しを始めた。周囲に人家などが少なく、空気が澄んだところが条件だった。都心近郊は住宅地化が激しく、「光害」が多い。結局、常磐自動車道ができるいわき市に決めた。

文部省国立天文台の香西洋樹助手も「雪が降らず、季節風も少ない。晴天日数が多く、天体観測には最高」と太鼓判を押す。

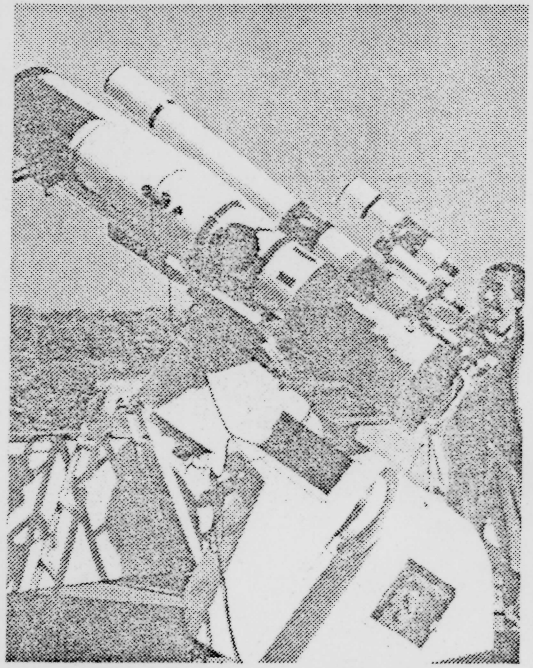
五十八年秋に着工、仕事の合間を見て、手のあいているメンバー六、七人が車で建設工事に通った。基礎工事は自分たちの手でやった。玄関のコンクリートも自分たちで流し込んだ。

「自分たちの城を造るのだから、苦労は感じなかった」とメンバーたちは笑う。観測所の運営費は、メンバーの年間二万円の維持費で賄う。

六十年から六十一年にかけて、約七十六年ぶりに地球に接近したハレーすい星を観測しようと、六十年八月、二階部分だけ使用を開始した。昨年十二月には、埼玉県比企郡吉見町、高校教諭市村義美さん(三六)が同観測所で新すい星を発見、「市村すい星」と命名された。

田中さんたちは、自分たちが造った天文観測所を「星の別荘」と呼ぶ。「夜は天体観測、昼は野鳥観察、さらに植物、昆虫観察と、豊富な自然に囲まれた観測所はいろいろな楽しみ方ができる。都会を離れ、同じ趣味の仲間たちが共に週末を過ごす、新しい形の休暇になるのでは」と田中さん。

開所式は六日正午から同観測所で行われる。これに先立ち、五日には首都圏から天文仲間約五十人が集まって前夜ろ。香西助手との懇談会しており、地元の人た一晩中、観測室を開放いろ。問い合わせは同（〇二四六―六八―三三へ。



大空に向かう30センチニュートン式反射望遠鏡。「今はアンドロメダ大星雲がよく見える」と田中さん＝いわき市田人町荷路夫のいわき天体観測所で

福島 浜通り版

きょうの降水確率 9―21時（%）

中通り	30
浜通り	20
会津	50

【中通り】きょう曇、日中一時雨夜時々晴◇あす曇時々晴【浜通り】きょう曇、午後一時雨後晴時々曇◇あす晴時々曇【会津】きょう曇、昼前に雨夜雪の所も◇あす曇【海上】きょう波2メートル後3メートル◇あす波3メートル後2メートル

きのうの気温

11月4日

	最高	最低
福島	14.6 ▼2.2	2.9 ▼3.7
郡山	13.0	6.4
白河	14.3 ▼1.1	1.0 ▼4.2
若松	12.6 ▼2.6	5.1 ▼0.2
小名浜	15.2 ▼2.4	3.8 ▼4.4

（下は平年比△高▼低）

あすの暦

11月6日
（旧 9月27日）
日出 6・08